

芥川龍之介：「蜘蛛の糸」

芥川龍之介の小説「蜘蛛の糸」の主人公カンダタは、死ぬ前にいろいろと悪事を働いて地獄の底にいます。

私は だと思いました。

もし私が地獄に行くことになったら / を想像したら、 だと思いました。

お釈迦様は、カンダタが唯一の善いことを思い出しくモの糸で助けます。

もし私がお釈迦様なら、 だと思いました。

なぜなら だからです。

カンダタはクモの糸を見つけて と考えました。

でも最後にカンダタは となってしまいます。

原因は だからだと思います。

きっとお釈迦様は、 と思った / 考えた / 試した のだと思います。

私ならどうするか考えました。きっと、 と思いました。

なぜなら だからです。

カンダタが再び地獄へ落ちてしまって、私は なんだかかわいそう / ざまあみろ / 助けてあげればいいのに /

しょうがない / 最初からうまくいかない気がした / 自業自得だ / お釈迦様はいじわるだな と思いました。

もしカンダタが していたから / なら

だったのに / だったのではないかと と思いました。

でもお釈迦様は悲しい顔をして、再びカンダタを助けようとはしませんでした。

私は だと思いました。

カンダタは2回も地獄に落ちてしまいます。地獄から出ることができるという希望があった分、目の前で

希望が消えてしまいました。私は と思いました。

なぜなら、(うまくいきそうでいかなかった体験 / 思い出) ということがあったからです。

そのとき、 という気持ちになりました。

芥川龍之介は、この物語で

ということ传达了かったのかもしれない。

このお話を読んで

について考えるきっかけになりました。 / 考えさせられました。

半日で読書感想文！ <https://handoku.com/>